

‘19新春企画第1弾
殉国・愛国教育の“神さま”
から突然、工学教育の祖に
された松陰――。

生誕190年
特別出版

タブーに切り込んだ

「松陰ブランド」の

さんざん政治に利用された

吉田松陰 190歳

吉田松陰は死んでいない

「私はいまなぜ吉田松陰を書くのか」

作家 一坂太郎

ここ十年ほどだろうか。私の研究テーマである「吉田松陰」とか「高杉晋作」といった歴史上の人物が、やたらと現代の政治家のイメージキャラクターのようになり、それに付随するかの如く祭り上げようとする風潮が、地元山口県では強まっている。(略)
偶像化したり、明治維新ゴッコをするのは勝手だが、酔いしれた人の多くはいつの間にか「松陰」や「晋作」を、自身の私有財産のように勘違いしてしまうらしい。



1/9 (水) 搬入 予定



四六判 並製 280ページ 定価 1500円+税
ISBN 978-4-86590-076-7 C0095 発行: 青志社

お問い合わせ:青志社 営業部 〒107-0052 東京都港区赤坂 6-2-14レオ赤坂ビル4F TEL03-5574-8511 FAX03-5574-8512

注文票	吉田松陰 190歳 一坂太郎	番線印
	定価 1500円+税 ISBN 978-4-86590-076-7 C0095 発行: 青志社	冊 (御担当 様)